

④富山県庁と富山城址

明治4年3月に^{はいはん ちけん}廃藩置県が行われ、新たに富山県が設置されました。県庁には旧本丸御殿が充てられました。その後、新川県となり、一時魚津に移転した時期もありますが、それを除けば県庁は城址に置かれていました。しかし、同9年に石川県（県庁は金沢）に統合されたため、城址にあった県庁は廃止されてしまいました。同時に県庁跡には石川県の富山支庁が置かれていましたが、同11年には廃止されました。



富山県庁

旧本丸御殿。天保4年(1833)に新築されました。廃城の際、藩主の居住空間である奥向きは取り壊され、表向き部分のみが県庁として使用されました。

これを受けて、富山の有志が城址保存のため、明治15年に公園として整備することになりました。人々は花や木を植え、景観を整えていきました。富山城の解体が進む中で、御殿が残る旧本丸部分の遺構だけでも保存したいという思いが湧きあがってきたのでしよう。

富山県と県庁の動き

明治4年7月	富山県設置 県庁は旧本丸御殿を充てる
明治4年11月	富山県が廃止され新川県設置 県庁を魚津に設置
明治6年7月	県庁を富山城址（旧本丸御殿）に移す
明治9年4月	新川県が廃止され、石川県に統合 県庁は金沢
明治16年5月	石川県から富山県独立 県庁を城址に設置

しかし、ようやく公園としての形が整った明治16年、石川県から富山県が独立し、また城址に県庁が置かれることになりました。その結果、公園は廃止され県庁敷地となったのです。同32年に初代県庁舎（旧本丸御殿）は焼失してしまいますが、その後も県庁敷地として利用されています。